

アルミニウムリサイクル

持ち込み大歓迎！ 信頼の1951年創業

カワウチM.R.株式会社

東京本社 〒135-0001 東京都江東区毛利 1-5-20 Tel.03(3633)2590-F03(3633)2506
 茨城支店 〒300-2512 茨城県常総市大輪町 823-1 Tel.0297(24)5111-F0297(24)5113
 岐阜支店 〒503-2112 岐阜県不破郡垂井町綾戸 540-7 Tel.0584(23)1271-F0584(23)3654

六%減産を発表するなど、銅の国内需要も減少して



講演する橋本氏

十月十日に大阪で開催された伸銅品技術講習会で、橋本健一郎氏（橋本金属代表取締役）が「銅及び銅合金リサイクルの現状と展望」と題して講演を行った。リサイクル原料（以下R原料）を取り巻く状況を時代別に解説し、伸銅品生産に欠かせないR原料確保のためには関係者の協力が必要不可欠とする説明に、出席者は熱心に耳を傾けて

再生資源は不可欠

伸銅品技術講習会で橋本氏講演

いた。講演内容は以下のとおり。

解説をわかりやすくするために、橋本氏はR原料を新R原料と旧R原料に分別。新R原料とは製品加工過程で発生したR原料で、板・条の打ち抜き材や削り粉など指す。流通ルートは加工工場から独自ルートで製造工場に届くというもの（リターン材）。旧R原料とは銅などを使用した製品が、消費者の手にわたり利用廃棄され、R原料として回収されたもので電線、クーラー配管、ガス周り品などを指す。流通ルートは消費者からR原料問屋へわたり、そこで選別

されて工場へ届くというもの。

九〇年以前（少品種、大ロットの大量生産前提の時代）のR原料を取り巻く状況は、右肩上がりの経済成長によりほぼ国内で消費され、R原料問屋では人手、目視、薬品などにより分析と選別が行われていた。また、特徴として上級品と下級品の価格差による利益確保が挙げられる。

九〇年から〇四年（R原料海外流出期）までのR原料を取り巻く状況は、パブル崩壊により国内需要が低迷し、人手や目視による選別はコスト高になるため困難となった。また、原料価格の低迷のため、選別による利益確保が難しくなった時代でもあった。

〇四年あたりまでは国内銅建値は、二〇〇〜二五〇円（キロ）という低水準で推移していた。しかし、〇五年頃から高騰し、〇七年には過去最高値となる一〇五〇円（キロ）を記録した。

現在のR原料を取り巻く状況を見ると、新興国の高度経済成長により世界的な原料需要が発生し、選別法もハンディー分析機などによる科学的な分析及び選別法へと発展した。特徴として、原料不足による下級品価格の上昇及びコストの上昇、環境問題により無選別輸出時代へと突入したことがある。だが、現在の伸銅品生産におけるR原料比率は五六%となっており、R原料なしに国内の伸銅品生産は考えられ

ない状況である。

しかし、世界への輸出量は九六年から十年間で約七倍に増えており、そのうち九〇%が中国向けとなっている。現在の銅及び銅合金R原料の国内バランスは供給一六六万トン（一一万トンは輸入R原料）に対し、需要は一五三万トンで一三万トンの供給過剰となり、国内需要は満たせることになる。しかし、輸入分の一一万トンを抜くと需要と供給はほぼ均衡するため、輸入R原料が減ると国内供給がひっ迫する可能性も出てくる。

そのような状況にしないためにもR原料の安定的確保のためにメーカー、伸銅品問屋、R原料問屋が情報を共有し、連携を深めることが重要とした。